



あなたの地域に “小映画館“ありますか？

地球的規模の異常気象、いままで体験したことのない気温上昇に、日々、振り回された今年の夏、皆さまは、いかがお過ごしでしたか？

“熱中症”で亡くなられた方々は、各地で最多となり、全国で、想像に絶する程の災害が発生し、命を落とされた方々の暗いニュースが毎日の様に報道され、自然の驚異に、改めて恐れを覚えました。

ほっと、一息、秋を感じられる時節となりました。「ピープル・ニュース」を早く、発行しなくてはと思いつつ、日々の雑用と、体力的にパワーも不足し、やっと、“秋号”をお届けすることが出来ました。

近年、地球環境の悪化により世界中で発生する災害、大国による自国利益優先政策による移民問題など、個人の自己中心的なエゴがまかり通って往く状況が台頭してきています。

人間が本来持ち合わせているはずの寛容の精神が失われつつあるのでは…、大きな不安を覚え、最近の大人たちが、大人としての機能を喪失してしまった状態にある様に感じます。

国の最高レベル機関である国会、学歴のある大の大人たちが、欺瞞に満ちた答弁を繰り返し、国民を欺き、周りの大人たちも、それを、咎めることすらなく、私利私欲に明け暮れている姿は、見ていて見苦しい限りです。

仕事上、多くの青年たちに会う機会が沢山ありますが、彼らの姿が時代と共に変化しているように感じます。青年たちはかなりの技術と学歴を持ち合わせているのに、皆、一応に自信がなく、全てに臆病になってしまっています。

無理ありません、一步踏み出た社会が弱肉強食の原理の歯車が早く、早く回っている社会なのです。「ピープル」へたどり着く前に、少しでも思いやりのある大人たちに出会うことがなかったのか…、積木細工のような繊細な青年を前に心が痛みます。

最近、我が地域に若い人が運営する “小さな映画館“ができました。商業ベースに乗らない心に響く映画館です。

「子どもたちが教えてくれたこと」 (2016年フランス)
日頃、考えていた我が国の無責任な大人たちのこと、「ピープル」を訪ねてくる青年たちのこと、なぜ、殺伐とした社会になってしまったのか…? など考えさせてくれた映画です。主人公は病を抱



え、遅く生きていく5歳~7歳の5人の子どもたちの日々のドキュメンタリーです。

5歳にして、自分の病を把握し、担当医と対等に会話をし、自分の意見を伝える。難病を抱えながらも、親、友だちへの思いやりを口にし、精一杯生きていく姿に目頭が熱くなりました。たった、5歳なのに…！何がちがうのだろうか？我が過ぎ去った育児を振り返りながら考えさせられました。

それは、社会に出て教育を受ける以前の問題が大きく絡んでいるように思われます。

個人差はあるもののフランスでは、1つの命がこの世に生まれ、存在した時点で、親もその子に関わりを持つ周りの人々も1人の人格を持った人間として尊重し、互いに自覚しあい様々な人種が共存し社会の1員として育てあげているようです。

そこには、幼児期から、社会の中で日常的にもまれ、ぶつかり合い、相手を思いやり、ごく自然に社会の主人公となり、健全な社会を築き上げているのだなあ…と強く、感じられました。

折も折、ある女性国会議員の「生産性がない…」発言、啞然とさせられました。

この日本の土壌で育った彼女は何の疑いもなく、本気でいったのでしょうか。又、この言葉を養護し批判すらできない大の大人たち、文明だけが発達し、個々の民主的な考え方が追い付いていけない我が国のアンバランスさを露呈させた出来事でした。

さて、もう、1本、未来に希望を与えてくれた日本のドキュメンタリー映画、「おだやかな革命」。原発事故以来、人々の意識は確かに変わってきています。

若者たちが、これからの暮らし方を真剣に考え、全国各地で光のみえる未来は…と試行錯誤しながら、地域の自然を味方に活性化していく物語です。

それぞれの若者たちが自分の学んだ知識を携え、過疎地へ飛び込み、その場に見合った産業づくりにロマンを以て挑む、若者たちの一途で、ブレのない姿とその若者たちを見守る大人たちのあたたかい眼差し、包容力のある姿も、又、感動的です。

今の日本社会が抱えている様々な矛盾は、解決していく事には至難な事柄ばかりですが、それが意外にも“暮らしの選択”という身近なところから解決していけるのではとの発想の転換は若者ならではの見識かもしれません。

若者たちの個性豊かな新しい感覚で日常を創り上げていく姿は、希望にあふれ、まばゆい限りです。このような自分を見つめ、大きな理想を以て遅く生きていく若者の姿は、この国の未来に明るい健全な社会を築き上げていくことと、願ってやみません。

「ピープルファクトリー」代表 大谷東子



映画と本とパンの店 シネCINEKOYA

「定休日：木曜日」
営業時間：9:00~20:00
神奈川県 藤沢市 鶴沼海岸 3-4-6
※鶴沼海岸駅から徒歩で3分くらいです。
TEL:0466-33-5393

cinekoya.com

約3,000冊の本があります
小説やエッセイ、
懐かしい映画雑誌など。

パン屋&カフェスペース
(持ち帰り・カフェのみ利用可)

第 13 回を迎える “ピープル・カルチャータイム”

人々が集う「ピープル」のゆったりとした雰囲気は、日頃の雑音から見失いがちな文化的な余裕のあるコミュニケーションの大切さを感じさせてくれます。

収益金の1部は支援を必要とされている会又は団体にご寄付させて頂いております。

“カルチャータイム”1年間の記録

1回 2017・12/25 ヴィラ・恵那 クリスマス・チャリティー・コンサート

* 貧困に苦しむフィリピン子ども達へ寄付

2回 2018・1/26 映画上映会 「パーソナル・ソング」

* 福島県南相馬市・地域作業所「もくもく」へ寄付

3回 2/17 ヴァイオリン「愛のしらべ」 前田みどり

* 福島南相馬ファクトリーへ寄付

4回 3/24 縄文笛・土笛・フルート演奏と山田俊子さん

絵手紙展の詩朗読ジョイントコンサート。朗読・加藤慶子

* 福島原発神奈川被災者の会“ふくかな”へ寄付

5回 4/28 映画会 「ボブという名の猫・幸せハイタッチ」

* ホームレス支援団体へ寄付

6回 5/26 中島三郎 デキシード・ジャズ

* ユニセフへ寄付

7回 6/23 アフターヌーンをボサノバで

柿木有加子

8回 7/21 “TSUBO-KEN play the SAX・路上の片隅で”

9回 8/25 平川恵里 “ショパンのしらべ”

* 西日本豪雨災害へ支援

10回 9/15 中島三郎グループ

再ライブ “デキシード・Jazz”

* 訃報 翌・16日・中島三郎さん、亡くなられる。

往年のトロンボーン奏者・包容性に溢れたお人柄、残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。

11回 10/27 “懐かしのアメリカン・カントリー” ジャツク Kakinoki

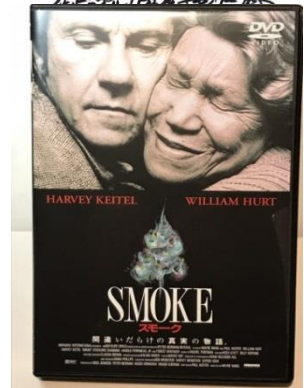
12回 11/17 秋らしくなって・フルート・ライブ 縄文笛 毅

13回 12/15 映画上映「スモーク」(1995年・日米合作)

* ストーリーはクリスマスの日から始まる・

カルチャータイムのスケジュールは「ピープルファクトリー」のホームページで

<http://people-factory.org/>



2018年度 特定非営利活動法人

「ピープルファクトリー」役員会/定例総会報告

2018年6月13日、「ピープルファクトリー」2018年度・理事/役員会・定例総会が開催されました。多くの方々のご参加により無事終了いたしました。2017年度の活動報告、2018年度の事業計画が報告されました。参加頂いた役員、スタッフ、仲間たちから様々な意見が出され、活気のある会となりました。これらの貴重な意見を、今後の運営に生かしていきたいと思えます。

時の流れがあまりにも早すぎ、戸惑う昨今です。仲間たちも新人を除いて皆、40代に入りました。皆、落ち着いて毎日仕事に励んでいます。

彼らが「ピープル」に来たときはどうなっていくのかな～と不安もありましたが、皆、しっかりと他人を思いやる立派な大人になりました。今では年を取ったヘルパーをきずかって重い物を運んでくれたりしています。彼らを見ていると、確かに相手を観察しています。これは必要なことだなど理屈ではなく体で悟る術をもっているようです。お互いに、年を重ねることで、またもや新しい発見があります。

仲間たちの素晴らしさにワクワクしています。(T)

仲間たちの日々



庭でアート教室



Café & ギャラリー



楽しくお習字